

国営明石海峡公園 整備・管理運営プログラム

令和7年度までの整備及び管理運営方針



国営明石海峡公園の概要	1
今後五年間の整備・管理運営の重点事項	8
整備方針	9
管理運営方針	11
事業の効果	14

令和3年 6月

国土交通省 近畿地方整備局

自然と人との共生、人と人との交流

国営明石海峡公園は、明石海峡大橋を挟んだ周辺地域の広域的なレクリエーション需要に応えるため、兵庫県淡路市の『淡路地区』と神戸市北区、西区の『神戸地区』の2地区で整備を行っている全体計画面積 330ha の国営公園です。

基本理念は『自然と人との共生、人と人との交流』

淡路地区は、緑を失った土取り場跡地を花いっぱいの海辺の交流空間として再生し、神戸地区は、大都市の近郊で里地里山文化を体験できる公園づくりを行っています。

淡路地区は平成 14 年 3 月に、神戸地区は平成 28 年 5 月に第 1 期開園しました。

■広域位置図



■位置、計画面積

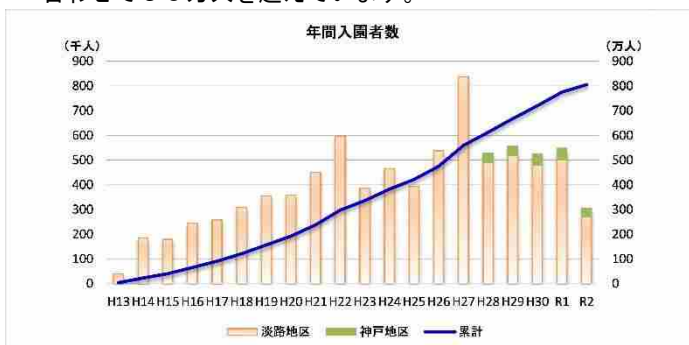
	淡路地区	神戸地区
コンセプト	「海辺の園遊空間」	「里地里山文化公園」
概要	国際的でリゾート感溢れる海辺の園遊空間の創造を基本として、隣接施設と連携を図りながら整備を進めています。 令和 2 年 4 月現在、計画面積 (96.1ha) の約 42%となる 40.4haが開園しています。	大都市近郊で、豊かで広大な里山環境を守り育てながら、ゆとりある身近な森として利用できるよう整備を進めています。 令和 2 年 4 月現在、計画面積 (233.9ha) の約 20%となる 46.2haが開園しています。
位置	兵庫県淡路市	兵庫県神戸市北区・西区
計画面積	96.1ha (うち 40.4ha 開園)	233.9ha (うち 46.2ha 開園)

■供用の経緯

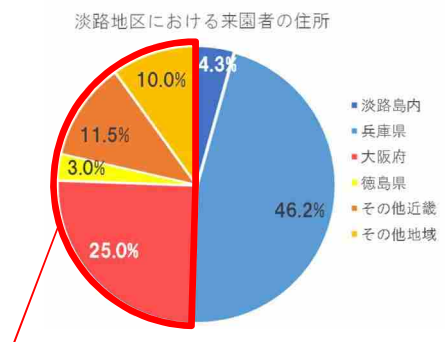
淡路地区	
H 5 年度	事業着手
H 6 年度	淡路・東浦都市計画公園 淡路島公園 都市計画決定
H13年度	第1期開園(30.1ha) 文化交流ゾーン、海岸ゾーンの一部
H15年度	第2期開園(6.2ha) 移ろいの庭、芝生広場
H16年度	第3期開園(0.9ha)ピジター棟、淡路ロケット棟、 芝生広場大型複合遊具
H22年度	第4期開園(2.3ha) 淡路口駐車場、9号園路
H28年度	第5期開園(0.9ha) 淡路口駐車場、細園路等
神戸地区	
H 5 年度	事業着手
H 8 年度	神戸国際港都建設計画公園 しあわせの森 都市計画決定
H28年度	第Ⅰ期開園(41.3ha) 棚田ゾーン、森のゾーン、 自然保全ゾーンの各一部
H29年度	第Ⅱ期開園(1.7ha) 棚田ゾーン、水と緑のゾーンの各一部
H30年度	第Ⅲ期開園(3.2ha) 棚田ゾーンの一部

■入園者数の推移

○利用者数は増加傾向にあり、近年の年間利用者は、両地区を合わせて50万人を超えています。



○広域的に誘致を行い、約5割の利用者が県外から利用されています。



県外からの来園：年間約 50%

■淡路地区の概要

淡路地区は、国際的な交流の場として、周辺との役割分担を図りながら、大規模な土取り場跡地の自然を回復し、新たな園遊空間の創出を図っています。

整備方針（国営明石海峡公園基本計画 平成 29 年 6 月改定）

1. 自然回復と望ましい環境形成を目指す
2. 「花」「海」「島」を活かしたランドスケープと園遊空間の場づくりを図る
3. 21 世紀の快適な都市づくりとライフスタイルに新たな提案を行う
4. 周辺との連携で核となる整備を図る

◇展望ゾーン（未開園）
国営公園、国際公園都市の背景として斜面緑地を整備保全。明石海峡大橋、大阪湾を一望できる展望の場とします。

◇文化交流ゾーン（部分開園中）
瀬戸内海、淡路島の自然・歴史・文化を基調に、国際交流にふさわしい園遊空間を整備します。

◇海岸ゾーン（部分開園中）
海岸レクリエーション利用の場となるとともに、海の玄関口として港湾施設との連携利用を図ります。

【公園周辺の主な施設】



あわじ交流の翼港
(兵庫県)



淡路夢舞台
(兵庫県)



県立淡路島公園
(兵庫県)



サステナブル・パーク
(淡路市・兵庫県)

○施設配置図



○開園している主な施設 <淡路地区>

施設名	写真	施設概要
1 月のテラス		紀淡海峡につながるダイナミックな風景が楽しめるおきのビューポイント。 チューリップなど季節ごとに花との風景がお楽しみいただけます。
2 空のテラス		淡路特産の瓦を使った小庭園で、園内の緑と空と大阪湾の海が見渡せる見晴しスポット。
3 立体花壇		“明石”ならではのタコや、阪神・淡路大震災からの再生と復活の祈りを込めた花火鳥などの立体花壇は、季節により花の種類が変わります。
4 大地の虹		春はチューリップ、夏はヒマワリ、秋はコスモスと季節の花々が虹のように咲きほこります。 まるで、虹から虹へと散歩しているような雰囲気味わえます。
5 花の中海		スワンボートに乗って、中海と水路をめぐりながら、四季の花の色や香りを感じていただけます。 かわいいカモたちとのふれあいも楽しみのひとつ。
6 海のテラス		園内で最も海に近いテラス。 大阪湾の海はもちろん、天気の良い日には本州の山々もくっきり見ることができます。
7 ビジター棟		授乳室、休憩スペース、団体のお客様の昼食スペースなどがあります。 また、クラフト体験や標本展示などのイベントも開催しています。
8 芝生広場、 夢っコランド		広い芝生広場では、かけっこやボール遊びなど、思い思いの時間が過ごせます。 夢っコランドには、すべり台やブランコなど、ユニバーサルデザインに配慮した遊具が多数あります。

■神戸地区の概要

神戸地区は、土地の歴史・文化を含めた自然環境を保全し、自然との共生を中心とした伝統的な自然観を継承することによって、いのちのにぎわいが豊かな「里地里山文化公園」を目指します。

整備方針（国営明石海峡公園基本計画 平成 29 年 6 月改定）

1. 歴史・文化を含めたこの土地の里地里山の景観を、新たな技術を導入しながら再生し、継承していくことを目指す
2. 国際都市神戸に位置することから、自然と人との共生という伝統的な日本人の自然観を海外の人々にも発信することを目指す
3. 誰もが利用できる都市公園というレクリエーションの場を活用して、里地里山文化を体感できるとともに、大規模な里地里山を「動態」として保全し、これを継承していく際のモデルとなる公園づくりを目指す
4. 環境保全と豊かな暮らしを同時に求める、持続可能な新しいライフスタイルの提案を目指す



- ◇棚田ゾーン（部分開園中）
農耕や里山管理を公園利用に取り込み、里地里山の生活技術や歴史・文化を継承します。
- ◇森のゾーン（部分開園中）
緑に囲まれた環境の中、自然を学び、楽しむ野外フィールドを整備します。
- ◇自然保全ゾーン（部分開園中）
管理と利用のバランスを保ちながら、貴重な動植物の生息・生育環境を保全します。
- ◇水と緑のゾーン（部分開園中）
隣接するキーナの森とともに自然環境との生物多様性のネットワークを保全・形成します。

○施設配置図



至 しあわせの村連絡口

○開園している主な施設 <神戸地区>

施設名	写真	施設概要
1 茅葺き民家群		茅葺き民家を移築した「伝庫(でんご)の家」、「白拍子(しらべし)の家」などの茅葺き民家を中心に小規模な農村集落を再現しております。伝庫の家の隣には、公園のインフォメーションセンターでもある里山情報館もあります。
2 農村舞台		この地域で盛んだった農村歌舞伎をはじめ、様々な伝統芸能や音楽などのステージが開催でき、舞台や花道を備え、本格的な演出が可能です。
3 里山交流館・木工棟		屋内での環境学習やセミナーなどを行う「里山交流館」と工作などクラフト体験ができる「木工棟」では、里地里山の学習や素材を活かした体験ができます。
4 白拍子 ^{しらべし} 棚田・だんだん畑		棚田ゾーンのある中心にある白拍子(しらべし)棚田、だんだん畑は、昔からの地形を活かして急な法面の畦を再生し、水田耕作や畑作を行っています。
5 小野 ^{こうの} 水田		農作業や収穫などの体験プログラムの中心地であり、谷戸の大らかな水田、畑、蓮田が広がります。
6 めだか池		池の上に木製デッキが渡してあり、里山に生きる水辺の生きものを観察することができます。
7 つつじの広場		春先には、コバノミツバツツジが咲く美しく手入れされた明るい里山林をのんびり散策できます。
8 里山美林		繁茂した竹や樹木を間伐し手入れした里山林。足元まで光が差し込む明るい落葉樹林です。
9 遊びの森		雑木林の中に作られた遊び場。地形を活かしたローラーライダーなどの遊具があります。

■国営明石海峡公園のストック効果

<淡路地区>

土取り跡地の自然再生

昭和 30 年代後半から平成 6 年まで、関西ベイエリアの埋立て用土砂として約 1 億 m³ が搬出された岩盤剥き出しの土地に、公園事業によりなだらかな地形や人工池をつくり、約 340 種類 8 万本を超える植物を植栽しました。今では樹木が生長し、失われた緑が美しく回復しています。



整備前
(1994 年)



整備後
(2018 年)

観光・交流の拠点

年間を通じ立体的で多品種の花壇デザインによる美しい花の景色を創出し、花の島・淡路島を代表する観光の中心的な施設となっています。また、広い芝生広場や駐車場を活かし、地域の大規模イベントの会場として活用され、地域振興に貢献しています。



← 年間を通じて美しい花の景色を維持



← 淡路市夏まつりの様子
フィナーレには花火が打ち上げられました。



← 毎年開催される淡路島
ロングライド 150 のスタート・ゴール会場となっています。

広域的な防災力向上

淡路地区は、淡路鳴門自動車道に近くヘリの離着陸を遮るものがないなど陸・海・空のアクセスがよく、津波に対して安全※であり、岩盤で液状化の可能性も低いという防災上有利な立地にあり、南海トラフ巨大地震などの大規模な災害発生時には広域防災拠点として機能します。

※海岸ゾーンの地盤高は 6m 以上であり、兵庫県の南海トラフ巨大地震津波浸水シミュレーションにおける近傍点の最高津波水位は 2m 以下であることから、台地上への浸水はないと想定されています。

(兵庫県 南海トラフ巨大地震津波浸水シミュレーション 平成 25 年 12 月 24 日公表) より)



← ヘリコプター
離発着訓練

【コラム】 自衛隊との防災協定

淡路地区は広域防災拠点として指定されており、自衛隊や消防の物資の集積、臨時ヘリポート、部隊の露营地等として活用される拠点となります。2015 年 3 月には自衛隊と「災害時等の国営公園の占用に関する協定」を結んでいます。

環境学習・園芸福祉の場

地域の大学やボランティア団体等との連携により、小学生を対象とした環境学習、植物の香り等を用いた園芸療法プログラムや障がいのある方が花壇管理等に参加する園芸福祉の場として活用されています。



園芸療法プログラム

<神戸地区>

里山景観の再生・保全

神戸地区の区域は、数百年に渡って農業空間として維持されてきた豊かな里山でした。昭和 30 年代から燃料革命や生活スタイルの変化により手入れがされなくなり、ネザサやツル等が茂る荒れた状態だったのを、公園整備によってもう一度人の手を加え、里地里山の典型的な景観を蘇らせています。



整備前
(2002 年)



整備後
(2019 年)

伝統的な自然観の継承

二十四節気七十二候で表現される花の開花や虫や鳥の出現などの自然の変化に応じ、収穫・体験・自然観察などの多様なプログラムを提供します。公園という事業手法を活かし、子どもからお年寄りまで誰もが気軽に里山の営みに触れることで、自然と共生する日本人の自然観を伝えていきます。



水辺の生きもの観察会

【コラム】 二十四節気七十二候とは？

太陽と月の動きを組み合わせた太陰太陽暦「旧暦」では、春夏秋冬をそれぞれ六つに分けた二十四節気やこれをさらに三つに分けた我が国固有の七十二候で季節を表していました。

市民参加による公園づくり

神戸地区では、開園前の整備段階から多くの市民団体との協働による公園づくりに取り組んでおり、多数の市民団体が活動しています。

市民団体のみなさんには耕作、樹林管理作業、自然観察・環境調査等の活動の他、各団体の個性を活かした来園者向けのプログラム（体験、遊び、講習・観察会など）の提供に取り組んでいただいています。



とんど焼き



あいな里山まつり



あいな里山参画団体運営協議会

環境学習体験の発信

近隣の幼稚園・小中学校・高校・大学を含めた団体へ自然観察や収穫体験等の環境学習・総合学習の場を提供しています。



稲作-稲刈り



原っぱ遊び-虫取り



昔の暮らし-かまど

● “花の公園島”淡路 “大都市近郊の里山”神戸

それぞれの地域特性を活かした魅力ある公園づくりの推進

淡路地区においては、開園以来培ってきた高度な植栽技術を活かし、四季折々の花修景をさらに充実するとともに、海に面した大規模公園ならではのパノラマ眺望を楽しめる海岸ゾーンの追加開園などにより新たな魅力を加えていきます。

神戸地区においては、里山体験プログラムの充実や里山らしい花の見どころ整備等による景観向上を行うとともに、自然環境の中でのアクティビティなどの拠点となる森のゾーンなどの整備を進めていきます。

● 多様な主体の参画、地域との連携の促進

ボランティアグループや市民団体との協働による体験プログラムの拡充や、民間事業者との連携による音楽、文化、スポーツなど各種イベント開催をより促進するとともに、追加開園区域においては、海岸や里山景観などの公園資源を活用した民間事業者による収益施設の導入等を図り、多様な主体の参画、連携により維持管理・運営を進めていきます。

さらに、明石海峡を挟み高速道路でアクセスしやすい、約30分で結ばれた立地を活かし、それぞれの地区の魅力を双方でPRするなど2地区の連携強化や、両地区の周辺施設（淡路地区：淡路夢舞台・県立公園など、神戸地区：しあわせの村、キーナの森など）との連携を一層促進し、地域観光の振興に寄与していきます。

● 情報通信技術や再生可能エネルギーの活用の推進

情報通信技術を用いたキャッシュレス化の試行や SNS による情報発信等により、公園の利活用の活性化や、利用満足度向上に向けて取り組みます。

また、太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用、省エネ設備の導入等により環境負荷を低減し、持続可能な公園の管理運営を進めていきます。

＜淡路地区＞

民間活力の導入などにより、開園エリアの拡大、リニューアルを進めます

- ・明石海峡大橋を都市の日常から抜け出すゲートウェイとして、気分を“リセット”して、ゆっくりとした贅沢な時間を約束する淡路島体験へと誘(いざな)う拠点となる公園を目指します。
- ・花の景色づくりを中心としたエリアに加え、「国生みの島」の神話の舞台となった海の眺めと波音や香り、陽のひかり、風を五感で感じられる場所を提供し、魅力をアップします。
- ・波浪による浸食が生じている海岸線の安全対策を進め、海と山の自然に包まれながら、アウトドアのアクティビティを楽しむことができる開放的な場所を提供します。

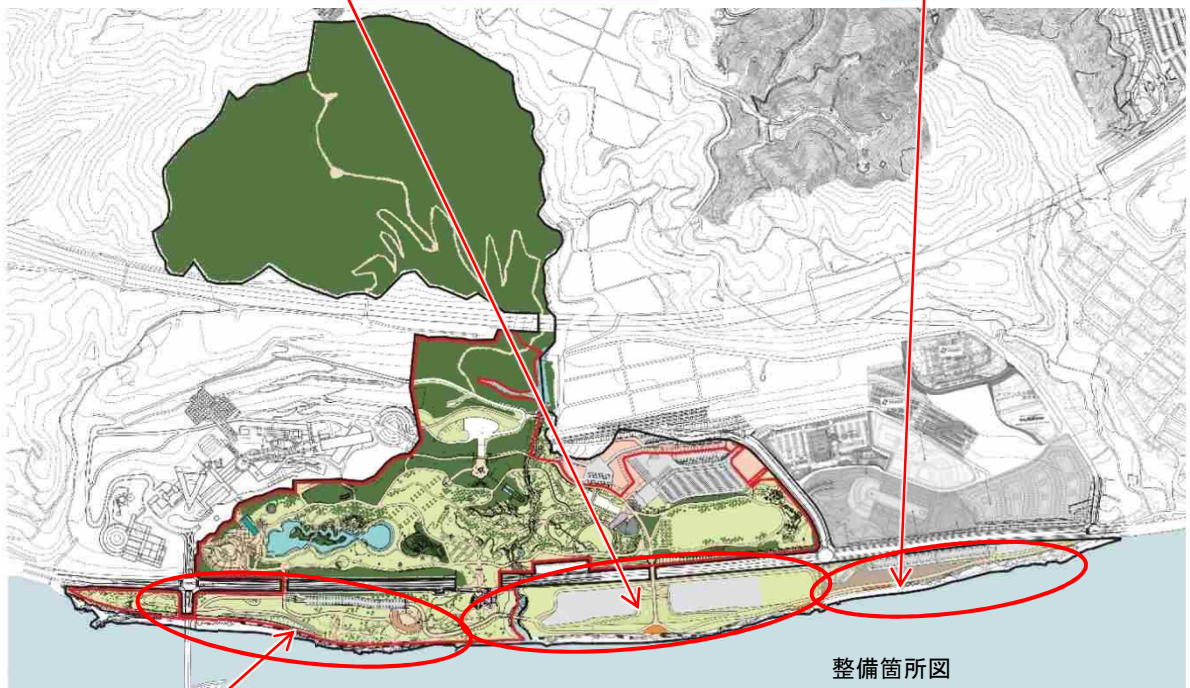
シースケープ・フィールド

- ・大阪湾を望み、波音を聞きながら景色を楽しむエリアを整備します。
- ・さらには、海を五感で感じられる海辺に続く園路を歩いて季節ごと、時間ごとに海の魅力を楽しめるエリアにします。



シースケープ・ラウンジ

- ・民間活力の導入により、周辺環境と調和のとれたデザイン性に優れた空間づくりを行います。
- ・海辺の開放性やリゾート感、地産地消を楽しめる飲食などを提供するエリアを整備します。



アウトドア・ベース 整備イメージ

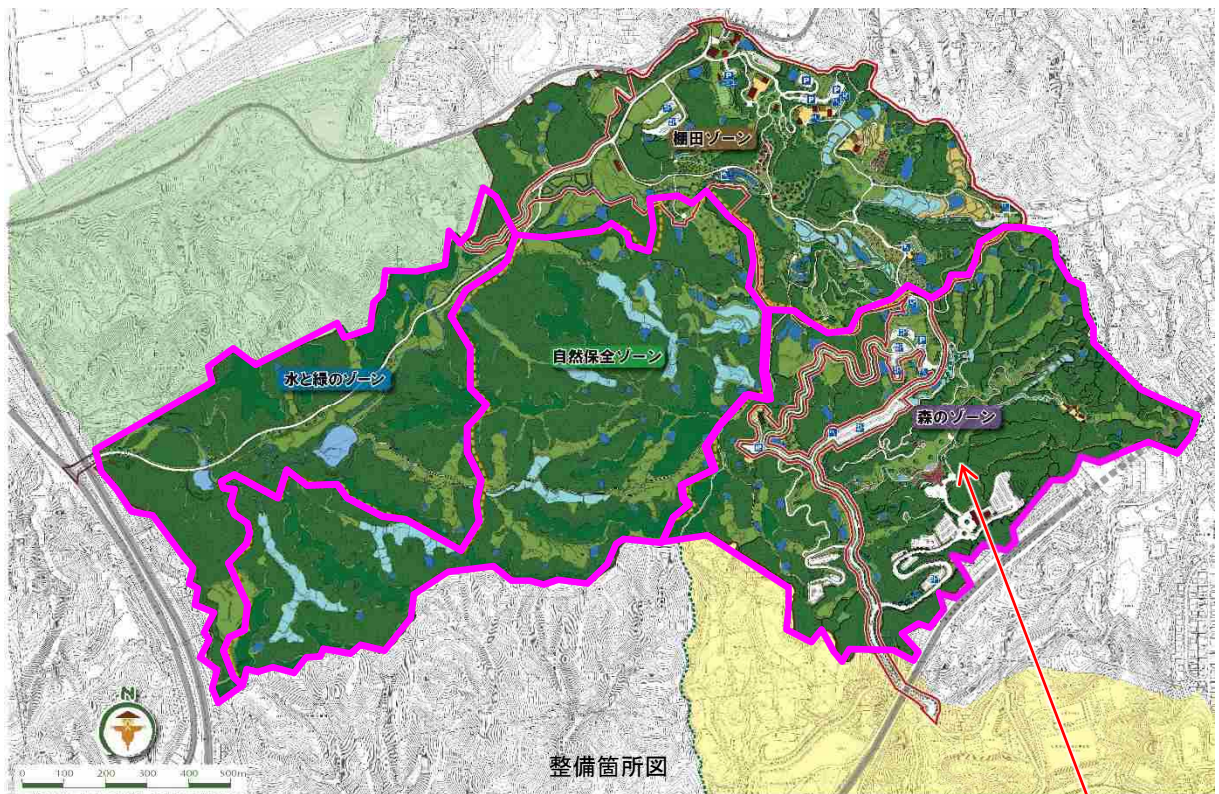
- ・より質の高い海辺のアウトドア体験が出来るエリアを目指し、バーベキュー広場の再整備を検討します。



<神戸地区>

自然環境を活かした森のゾーンなどの整備を進めます

- ・美しい風景の創出とともに子どもの遊びなど幅広い世代による余暇活動や自然環境の大切さを学習するゾーンとして順次整備します。
- ・園内の茅葺き民家の持続的な維持管理に必要な茅場の整備など、里地里山環境を適切に管理し、利活用するための取組を進めます。
- ・公園に隣接する自然地との生態系ネットワークの保全・形成に配慮し、豊かな自然環境を保全します。



森のゾーン

- ・樹林や棚田を活かした遊びの空間の整備や、野や花・生きものとのふれあいを通じた学びの場を提供できるエリアの整備を行っていきます。
- ・複数の尾根筋や谷戸部の豊かな自然を踏まえ、自然学習プログラムや自然を楽しむプログラムを実施していきます。



利用イメージ(ツリーイング)

2地区一体型の国営公園の特色を活かし、 広域的な利用を促進

淡路地区は「海辺の園遊空間」、神戸地区は「里地里山文化公園」という異なる魅力を持ちながら、ともに神戸の中心地三宮から約20kmに位置しており、両地区間は阪神高速、明石海峡大橋を利用すれば約30分で移動できる立地となっています。



● 情報通信技術の活用と公園利用者への利便性向上

キャッシュレス化の導入検討や、スマートフォンなどへの公園利用に関する情報提供システムの多言語化など、情報通信技術を積極的に用いる事で、「新しい生活様式」を踏まえた形で、幅広い公園利用者の利便性向上に取り組んでいきます。



多言語対応化イメージ

● 安全・安心な公園利用の推進

障がいを持つ方が花や自然を楽しむことのできるイベントの充実や休憩コーナーの増設など、より多くの方に満足いただけるような運営や、コロナ禍の影響を受けた「新しい生活様式」にも対応できるよう衛生管理の徹底を継続すると共に、密集を避けたイベントなど新たな利用方法を検討し、公園の魅力の情報発信を行っていきます。

また、淡路地区では老朽化した園路や水景施設の改修による機能回復を進め、神戸地区では茅葺き民家の定期的な補修や防火対策に取り組んでいきます。



レイズドベッドを使った植栽体験

<淡路地区>

● 高度な植栽技術、デザインの工夫による季節の花の風景づくり

チューリップ、ダリア、コスモスなど四季折々の花修景や、多品種で立体的にデザインした花壇などの高度な植栽技術によって、季節ごとに関西屈指の花の風景づくりを行います。

およそ5年ごとに開催され淡路島全島各地で花、食、歴史、暮らしなどの魅力発信を行う“淡路花博記念事業（花みどりフェア）”の期間においては、拠点施設の一つとして、大規模な花修景や情報発信を行います。



四季折々の花修景

● 民間活力の導入による、魅力向上

国営公園で初めて Park-PFI 事業において計画を認定し、民間事業者により美しい海の景色を活かした温浴施設・プールやカフェ、地元食材を活かしたレストランなどを展開し、「食と健康」をテーマとした、魅力あるサービス提供を行います。



整備イメージ

● 多様なイベント開催による地域活性化、交流促進

これまで成功してきた大規模イベントに加え、良好なアクセスや海・花に囲まれた平坦な芝生広場等の立地条件を活かして、話題性のあるイベントや多様な主体によるイベントを積極的に誘致し、地域の活性化、交流の促進に貢献します。



ロハスフェスタ淡路島

● 地域と一体となった公園運営

隣接する淡路夢舞台のホテル、植物館、国際会議場や周辺の公園、観光施設等との連携により、個性的で魅力ある利用コンテンツの開発を進めます。

また、淡路市夢舞台サスティナブル・パーク創造事業と連携し、良好な都市生活基盤の形成に貢献します。

加えて、園芸ボランティア団体「海峡フレンズ」と協働して活動を展開します。

このように、自然との関わりを通して、心と体の健康、社会生活における健康の回復を図る園芸療法も継続していきます。



海峡フレンズによる園内案内状況

● 広域防災拠点としての備え

大規模な災害発生時に災害派遣活動の拠点等としての運用を迅速、円滑に行うことができるよう、来園されているお客様を安全に避難誘導する訓練や、自衛隊等との情報伝達訓練等を充実するなど、災害発生に備えて取り組んでいきます。



災害時に防災拠点となる広場

<神戸地区>

● 市民団体等との協働

整備段階から協働で取り組んできた市民団体が中心となり、里山や自然に関する知識・技術を活かし、自らも楽しみながら来園者をおもてなしする参加型の公園運営に引き続き取り組みます。個人参加型ボランティア「里山フレンズ」による公園ガイドや調理プログラム等も展開し、更なる魅力向上に取り組めます。

また、地域の教育機関や自治体、民間事業者など産官学が連携し、園内の茅葺き屋根の葺き替えや獣害対策など持続可能な公園管理を目指す取組を進めます。



昔の暮らし-道具づくり

● 里山の暮らし・文化の伝承、環境学習等の体験プログラムの実施

里地里山環境を最大限に活用し、二十四節気七十二候で表現される自然の変化と里地里山作業を組み合わせ、収穫・体験・自然観察などの多様なメニューをセットにしたプログラムを実施していきます。

また、小中学校を中心とした学校団体の環境学習や総合学習の支援として好評を得ている、農作業体験や生きもの観察などのプログラム実施を引き続き行います。



耕作体験-
家族でジャガイモ掘り

● 野草など花の見どころの充実を含む里山景観の魅力向上

手入れされ日当たりが良くなった里山林や、田んぼの畔、湿地などに生育する自生種の野草を中心に、花のみどころを充実し、懐かしい風景と花を一体で楽しむことができる場所を増やします。

また、園内で多数生息する貴重種の保全、樹林管理、獣害被害の防止などにも引き続き取り組んでいきます。



白拍子柵田キキョウの風景

● 里地里山文化の情報発信の強化

里地里山文化公園としての魅力を SNS 発信なども含めて継続して発信していきます。

また、隣接する神戸市のしあわせの村やキーナの森と連携し、合同でイベントを開催したり、広報・情報発信をしていきます。



キーナの森への探検ハイキング

事業の効果

- 淡路地区海岸ゾーンの追加開園により、1キロ以上の海岸線からの海へのパノラマ眺望を活かした新たな魅力を提供できるようになり、来園者の増加による地域の活力の増進につながります。
- 自然観察などの多様なプログラムを通じて、環境学習など自然環境や文化を学ぶ機会を提供します。
- 市民団体や民間事業者など多様な主体の参画・連携の促進により、本公園の資源をさらに活用した新たな視点のサービスが提供できるようになり、新たな来園者層の発掘につながります。
- 民間施設を含めた周辺施設との連携を促進し、各々の得意分野を活かした取り組みを行うことで、地域の個性や魅力を発揮した効果的な地域活性化の進展が期待できます。
- よく手入れされた大きな公園があることで、特に淡路地区所在地周辺では、民間開発におけるブランドとなり、不動産価値の向上に寄与します。
- 定期的な訓練等により、広域防災拠点として地域の防災性が向上します。



淡路花博 2020 花みどりフェアプレイベント
(淡路地区 ポプラの丘)



大阪湾の眺望
(淡路地区 海のテラス)

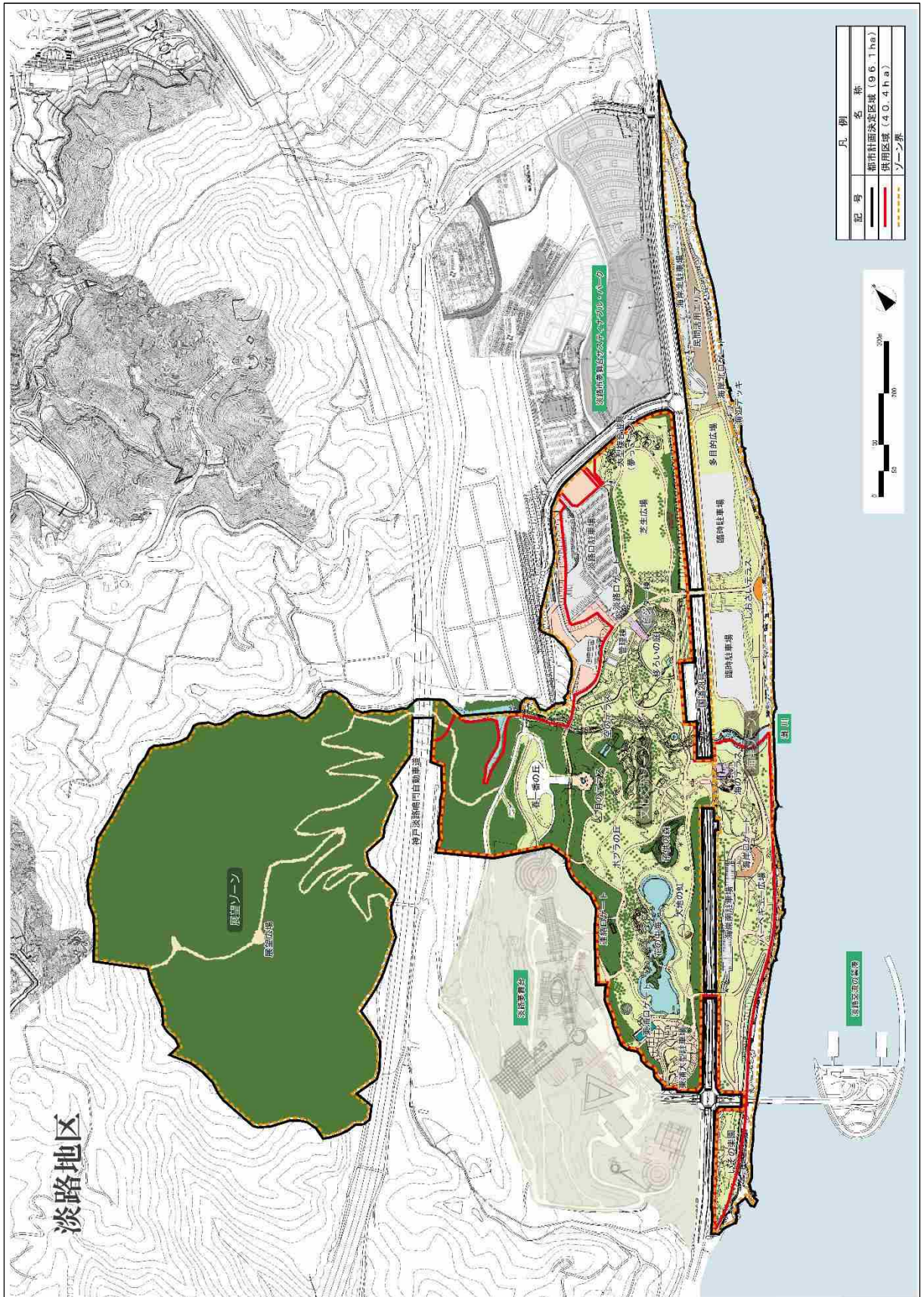


水辺の生き物観察会
(神戸地区 耕作楽園地区)

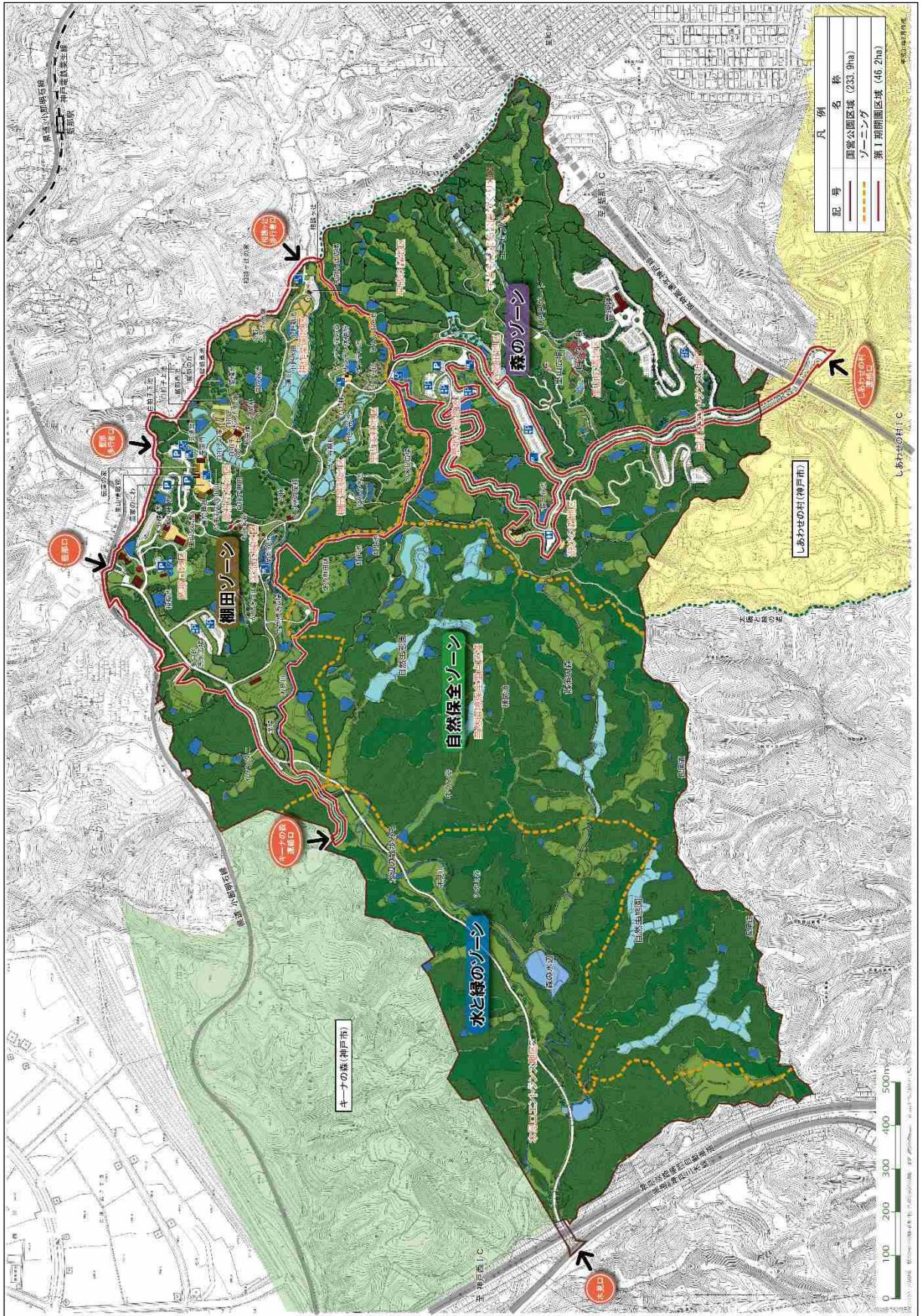


もちつき体験
(神戸地区 白拍子のにわ)

なお、本プログラムは、事業の進捗状況などをふまえ、適宜見直しを行います。



淡路地区計画平面図



神戸地区計画平面図